



子育てを共に支える保護者との関わりで大切にしていること

新ひだか町こども家庭センター保健師 角野 かなえ

保護者の子育てのはじまりに生じる、不安や迷いに対して、保護者と向き合う際に大切にしている関わりを、新ひだか町の保健師の立場から角野さんにお話を伺いました。

1 新ひだか町の子育て支援について

——角野さんはどのようなお仕事を担当されているのですか。

(角野さん) 主に乳幼児健診や幼稚園・保健所の連絡会、不妊治療に関する業務を担当し、お子さんの成長やご家庭の状況を伺いながら、必要な支援につなぐ役割を担っています。

——新ひだか町の子育て支援について教えてください。

(角野さん) 新ひだか町では、転入・転出が多い地域性であることや、身近に頼れる親族がいる家庭とそうでない家庭があるなど、子育て環境が様々なので、切れ目のない支援体制づくりを大切にしています。妊娠届出時の母子健康手帳の交付から妊娠中期の面談、乳児期の育ちを見守る赤ちゃん訪問まで、担当保健師が継続して関わる体制をとり、家庭の状況を丁寧に把握しながら支援を行っています。

また、お母さんの心身のリフレッシュを目的とした無料の一時預かり事業や、こども家庭センターでの遊び場開放など、保護者が気軽に足を運べる場づくりにも取り組んでいます。そこでは、子育て中の方や子育てを終えた先輩方が「親子サポーター」として関わり、初めての方にも声を掛けながら温かく迎えています。健診の場面でも見守りや声掛けを行うなど、地域全体で子育てを支える環境づくりを進めています。

2 保護者からの相談について

——角野さんが保護者と関わる時に大切にされていることはありますか。

(角野さん) 保護者の皆さんと関わる中で、私が何より大切にしているのは、まずじっくりとお話を聞くことです。相談に来られる方の多くは、不安や迷いを抱えながら、「誰かに聞いてほしい」という思いで足を運んでくださっています。だからこそ、その気持ちを丁寧に受け止めることを心掛けています。お話の中では、「あの時こうしていればよかった」と、保護者のご自身を責める言葉を耳にすることも少なくありません。そんな時、私が大切にしているのは、「その時に一生懸命考えて出した答えなのだから自分を責めなくていい」とお伝えすることです。子どもを思って選んできた一つ一つの判断には、必ず意味があります。その時の自分を否定するのではなく、まずはご自身を認めてほしいとお伝えしています。

そして「これからどうするか」を一緒に考えていきます。子どもの小さな成長や前進を分かち合いながら、安心して話せる存在であり続けられるよう心掛けています。

3 関係機関との連携について

——保育園やこども園との連携で工夫していることはありますか。

(角野さん) 保育園やこども園とは、日頃から情報共有を大切にしています。健診だけでなく、園での様子やご家庭での姿を共有し合うことで、子どもの成長を多面的に捉えられるように心掛けています。特に5歳児健診は、就学を意識し始める大切な節目の機会ですので、園での集団生活の様子も踏まえながら、成長や不安について保護者と一緒に考え、整理する場となるよう努めています。

また、支援は保健師だけで担うものではありません。保育所や幼稚園、発達支援センター、教育委員会など、様々な関係機関と連携しながら進めています。

特別な支援の有無に限らず、就学相談の際には、これまでの経過を保護者と共有した上で、教育委員会と連携しながら進めています。また、入学までの準備や生活の整え方についてまとめたリーフレットを活用し、保護者に具体的にお伝えすることで入学までの見通しを持てるようにし、不安の軽減につなげています。子どもと保護者が安心して次のステップへ進めるように、関係機関と力を合わせながら、就学前から切れ目のない支援を続けています。

4 さいごに

——保護者の皆さまにメッセージをお願いします。

(角野さん) 子育ては、決して一人で抱え込むものではありません。不安や迷いを感じたとき、「誰かに話してもいい」「相談してもいい」と思っただけで、それだけで大きな一歩です。

私たちは、生まれる前からの成長の過程に寄り添いながら、切れ目のない支援を大切にしています。これまでの経過や情報を丁寧に受け止め、関係機関と連携しながら次の支援へとつないでいくことも、保健師の大切な役割の一つです。

全てを私たちだけで担うことはできませんが、様々な部署や関係機関と力を合わせながら、子どもも保護者も安心して園や学校に通い続けられる環境を整えていきます。

保護者の皆さんとつながりながら、安心して子育てができる環境を一緒につくっていったらと願っています。

——この度は、保護者と向き合う際に大切にされている関わりについて、お話をお伺いさせていただきありがとうございました。

(角野さん) ありがとうございました。

